



平成 30 年 5 月 15 日

各 位

会 社 名 株式会社プロスペクト
代表者名 代表取締役社長 カーティス・フリーズ
(コード番号 3528 東証 2 部)
問合せ先 代表取締役常務 田端 正人
(TEL 03-3470-8411)

平成 30 年 3 月期の通期業績と前期の通期業績との差異に関するお知らせ

平成 30 年 3 月期の通期業績（以下、当期業績）と、平成 29 年 3 月期の通期業績（以下、前期業績）との差異について、下記の通りお知らせいたします。なお、当社は平成 30 年 3 月期の業績予想を開示していないため、前期業績との差異の説明を行うものであります。

記

1. 当期業績と前期業績との差異

(1) 平成 30 年 3 月期通期連結業績と前期連結業績との差異

	売 上 高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1 株当たり 当期純利益
前期連結業績 (A)	百万円 14,143	百万円 △43	百万円 516	百万円 488	円 銭 2 円 88 銭
当期連結業績 (B)	11,927	△1,354	△909	1,720	5 円 17 銭
増減額 (B - A)	△2,215	△1,310	△1,425	1,231	—
増減率 (%)	△15.7	—	—	252.0	—

(2) 平成 30 年 3 月期通期個別業績と前期個別業績との差異

	売 上 高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前期個別業績 (A)	百万円 6,565	百万円 △96	百万円 643	百万円 670	円 銭 3 円 95 銭
当期個別業績 (B)	5,103	△1,123	△299	△179	△0 円 54 銭
増減額 (B - A)	△1,462	△1,027	△943	△849	—
増減率 (%)	△22.3	—	—	—	—

2. 差異の理由

連結業績としましては、前期においては当社保有のソーラー発電所の不動産および設備の売却に係る売上を計上していたため、相対的に当期売上高は減少いたしました。また、ハワイの共同出資プロジェクトにおける収益や、外貨建て資産に係る為替差益の計上等がありました。当期においては、**The Prospect Japan Fund Limited**（以下「PJF」といいます。）を子会社化する過程で発生した弁護士費用等の取得費を販管費に計上したことにより営業損失を計上しましたが、前期に引き続きハワイの共同出資プロジェクトにおける収益や、PJFの子会社化に伴う負ののれん発生益を計上したことにより、親会社株主に帰属する当期純利益は、前期比で増益となりました。

個別業績としましては、ハワイの共同出資プロジェクトにおける収益や、当社が出資、開発する太陽光発電プロジェクトの売却益等を計上したものの、再生エネルギー事業に係る専門家のアドバイザーフィー等の販管費への計上や、課税所得の増加に伴う税金負担の増額等により、営業利益、経常利益および当期純利益が、前期比で減益となりました。

以 上